



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 205
April
2010

トピックス

災害情報

2010ハイチ大地震現地調査報告

ADRC受入研究員レポート

アジズ・アリ・ナセル・アルハイミ
研究員 (イエメン)

お知らせ

✦ 異動

✦ ADRC出版物：『稲むらの火』スペイン語版

✦ ADRCホームページ (ロシア語)

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 ひと未来館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2010

●災害情報

2010ハイチ大地震現地調査報告 (アジア防災センター所長 是澤 優)

本年1月12日に発生したハイチ大地震は、22万人以上の犠牲者や年間GDPの1.2倍におよぶ被害をもたらしました。アジア防災センター (ADRC) では、ハイチ大地震の被害状況や復旧・復興のための諸課題を把握するため、3月4日から12日にかけて現地調査を実施しましたので、その一端を紹介致します。

1. 今回の地震の特徴

(1) 諸機能の集中する首都を直撃、行政機能・経済活動が麻痺

首都ポルトープランス (圏域人口約250万人、総人口の約4分の1) では、大統領宮殿、国会、中央省庁等の国家の中枢機関のほとんどの建物が倒壊しており、多くの職員も犠牲にあったとのことです。政府機能の一刻も早い立て直しは最重要課題です。経済インフラ、オフィスビル等の多くが倒壊しており、経済活動の著しい低下を引き起こしています。加えて、学校や病院等の公共施設、教会等の人々の生活を支える施設の多くが被害を受けており、長期的な影響は確実です。首都機能が大きく被害を受けたため、地震の影響は被災地だけには止まりません。復旧・復興は国全体の再建とほぼ同義であるということが、ハイチ大地震の特徴の一つです。



【倒壊した大統領宮殿】
(2階部分は完全に潰れている)

(2) 貧困、無秩序な都市化、高い人口密度、地震への備えの欠如等が被害の拡大要因

災害は自然現象に加えて社会現象という側面があります。ハイチは「西半球で最も貧しい国」と言われます。長く混乱が続き、経済も疲弊し、大多数の国民は貧困状態にあります。ポルトープランスには総人口の約4分の1が集中しており、都市基盤が未整備な状態で急傾斜地など居住に適さない地区まで広がるなど、高密度で災害の危険性が高い都市がもともと形成されていました。また、ハイチでは地震に対する備えは全くありませんでした。ハイチを含むイスパニョーラ島はプレートの境界に近接しているにも関わらず、過去200年以上ほとんど地震がなかったということは不思議です。地震の危険性も指摘されていましたが、そこまで手が回らなかったというのが実情です。このような無秩序な都市

続き

化、都市基盤の未整備、貧困、災害への備えの欠如などは今回の地震の被害を拡大した要因と言えます。

2. 今後の課題など

(1) 瓦礫処理、安心・安全な居住の確保

震災からほぼ2ヶ月が経過しても、倒壊建物は放置され、路上には瓦礫が積まれており、それらの処理のほとんどは人力に頼っています。地震で居住の場を失った約130万人がテント生活を強いられています。計画的に提供されたテント村はごく一部であり、大多数は広場や道路脇などのわずかな空間に身を寄せ合って生活しています。4月からの雨季、6月からのハリケーンシーズンを控え、安全な仮設住宅の提供が急務ですが、まだ緒についたばかりであり、必要な量を確保するのは相当長期化しそうです。



[ポルトープランスの郊外の傾斜地の倒壊した住居群]

(2) 国土整備の観点からの復興

地震後、約60万人が住居や食料を求めて地方へ移住しました。ハイチ政府は、これを機に地方の拠点都市を育成整備し、就業や就学の機会も提供することにより、首都に過度に人口の集中しない国土形成を目指していますが、その実現は非常に困難と言わざるを得ません。一旦復旧・復興が始まれば都市に人々が引き寄せられることは確実でしょう。かなり強引な政策手段（流入や建築の規制等）が導入されない限り、震災前以上に危険な都市が再生産されていくことが危惧されます。

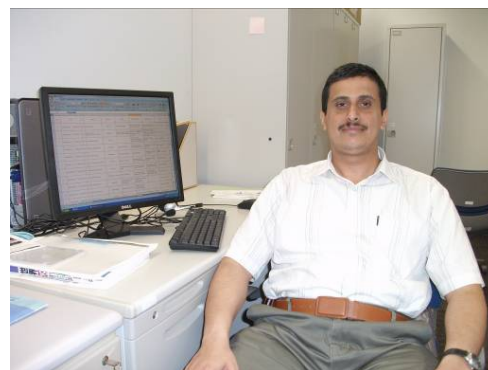
ハイチの復興は長期化することは確実ですが、国際社会からの息の長い支援は不可欠です。ADRCでは、国際復興支援プラットフォーム（IRP）などを活用して復興への支援を図っていくとともに、今回のハイチ大地震の経験を他のアジア諸国とも共有していくこととしています。

●ADRC受入研究員レポート

アジズ・アリ・ナセル・アルハイミ研究員（イエメン）

私はイエメンから来たアジズ・アリと申します。イエメン海上保安庁海事課の課長であり、捜索救助の専門家でもあります。

イエメン共和国は中東に位置し、南でアラビア海・アデン湾に、西で紅海に、東でオマーンに、北でサウジアラビアと国境を接しています。また、世界でも有数の重要な航路であるバブ・エル・マンデブ海峡とも面しています。イエメンには、21の行政区域があり、国土面積は約53万平方キロメートルとなっています。首都はサヌアで、人口は2,300万人を超えています。イエメン共和国は、1990年5月22日に300年もの時を経て南北イエメンが統合し、現在のイエメン共和国が成立しました。



続き

イエメンは熱帯に位置し、洪水、地震、火山噴火、干ばつといった災害が発生する他、地滑り、鉄砲水などにも見舞われやすいです。過去数十年にわたり数多くの洪水被害に直面し、イエメン政府は防災政策や防災関連機関の設立及び強化に関心をもち始めています。

私は2010年1月から6月までADRCの受入研究員として滞在しています。受入研究員プログラムでは、ADRCの仲間たちと防災に関する情報や経験を共有する素晴らしい環境を与えてくれるものです。このような貴重な機会を与えてくれた日本政府やADRCに感謝の意を表します。本受入研究員プログラムは、私の知識や災害に対する理解を更に増やしてくれるだけでなく、私や私の組織がよりよい防災を推進するために他機関との連携を促進してくれるでしょう。

●イエメンの防災情報

http://www.adrc.asia/nationinformation_j.php?NationCode=887&Lang=jp&NationNum=02

●お知らせ 異動

今井良広・ADRC研究部参事が出向元の兵庫県へ異動となりました。今後のご活躍をお祈りいたします。後任として、4月1日付で川脇康生がADRC研究部参事として着任いたしました。

ADRC出版物：『稲むらの火』スペイン語版

この度、財団法人日本国際協力システム（JICS）の協力を得て、『稲むらの火』のスペイン語版が完成しました。これは、JICSが中南米諸国のために、ADRCが作成した『稲むらの火』の英語版をスペイン語に翻訳したものです。

ご興味のある方は以下のウェブサイトからご覧下さい。

<http://www.adrc.asia/publications/inamura/others.html>

ADRCホームページ（ロシア語）

ADRCのホームページで提供しているメンバー国防災情報、ADRC活動報告がロシア語でも利用できるようになりました。どうぞご利用ください。

●メンバー国防災情報

http://www.adrc.asia/disaster_r/index.html

●ADRC活動報告

http://www.adrc.asia/adrcreport_r/

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。